

都民による自助・共助の取り組みを さらに推進するための内容充実について

2023年2月14日(火)

公益財団法人市民防災研究所
理事 池上 三喜子

1 地域の取り組み例

- ① 新宿区市谷台町にある大星湯の取り組み
- ② 国立市北二丁目みどり会の取り組み
東京隣組・第二回認定団体
- ③ 江戸川区なぎさニュータウンの取り組み
平成18年東京消防庁「地域の防火防災功劳賞」防災
部門最優秀賞受賞
- ④ 江東区聴覚障害者福祉推進協議会の取り組み
平成18年防災まちづくり大賞「防災情報部門」で、
(財)消防科学総合センター理事長賞を受賞





なぎさ防災会発案
製造：東京都葛飾福祉工場

布担架

自分たちの体験を活かして
開発したオリジナル担架!!

- 狭い階段でも回りやすく、運びやすい
- 救護者が安心して乗れる工夫…広い布で身体全体をカバー、抜け落ち防止底板、小物取付マジックテープつきポケットなど
- 破れても手を離しにくい取っ手構造
- 頭部には女性でも運べるベルトつき
- 軽量、コンパクトにたためて収納
- 持ち運びやすい収納袋



使用方法



避難完了しました

—避難の前に必ずチェックしてください—

電気

ブレーカー(玄関上)

ガス

元栓(メーターボックス)

水道

元栓(メーターボックス)

連絡欄 (避難先など連絡事項を記入してください)

_____ 号室 氏名 _____



防災 TOPICS

第11回防災まちづくり大賞
消防科学総合センター理事長賞 受賞

災害時の防災活動にあたる深川災害時支援ボランティアのみなさんが、聴覚障害者との意思疎通を図るために作成した、「手話コミュニケーション・カード」。
深川消防署・災害時支援ボランティア、江東区聴覚障害者福祉推進協議会による取り組みで総合防災訓練や震災訓練などで活用し、この度、第11回防災まちづくり大賞に入賞しました。

Q 手話コミュニケーション・カードって何？

A 手話コミュニケーション・カードは、手話を使う聴覚障害者と、手話のわからない健常者とのコミュニケーションを助けるために作られました。

カードには、手話のイラストとその意味が書かれています。手話のわからない人も利用できます。



深川消防署の災害ボランティアはこのカードを携帯して活動しています。

災害時、聴覚障害者は・・・

音による情報が入りません 災害時、聴覚障害者はサイレンや放送などが聞こえないため、何が起きているのか？ どこに行けばいいのか？ どうしたらいいのか？ 判断がしにくいことがあります。

目で分かるように会話を 指差しや身振り、文字や手話など、見て分かるような方法で伝える工夫をしてください。

見えないところでは伝わらない 暗がりや背後などは見えません。見える場所で伝えるようにしてください。懐中電灯の光や筆談ボードの使用も効果的です。



2 要配慮者の見守りを推進する

(見守りカード、福祉避難所へ直行するシステム作り)

災害対策基本法施行令に、災害対策基本法による避難所の指定基準の一つとして、福祉避難所は「要配慮者」の円滑な利用の確保、要配慮者が相談し、又は助言その他の支援を受けることができる体制の整備その他の要配慮者の良好な生活環境の確保に資する事項について内閣府で定める基準に適合するものであること。

3 火災対策

(住宅用火災警報器・消火器・感震ブレーカー等の設置)

住宅用火災警報器 約10年が交換の目安。

住宅用消火器 使用期限はおおよそ10年。旧規格消火器はすみやかに交換が必要。

感震ブレーカー 東京都は首都直下地震を見据え、2023年度老朽化した木造密集地域約32万世帯に感震ブレーカーを無償配布する。